

おおさか東線鳴野駅を見学

大建協

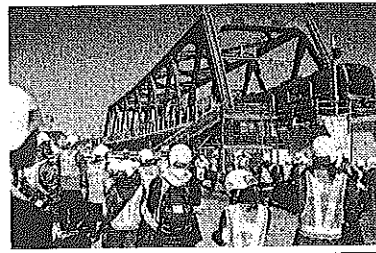
小学生ら60人招く

大阪建設業協会（奥村太加典会長、大建協）は11月28日、大阪市城東区などで建設が進む「おおさか東線」で、小学生と保護者30組60人を招き、現場見学会を開いた。一行はJ R西日本の職員の説明を受けながら、鳴野



高架橋の建設が進む

駅に増設したホームや寝屋川橋梁の架け替え現場などを訪れ、整備が進む鉄道構造物に見入っていた。大建協の阪口泰一広報委員長は「小学生と保護者を招く見学会は20回目を迎えた。本日は、普段



横移動を控えた橋梁

見ることのできない建設現場を見学いただくので、安全な行動をお願いします。どのように新しい鉄道をつくっているのかを見てもらい、開業後、電車に乗った時、今日のことを思い出してほしい。また建設業の仕事に少しでも興味を持っていただき、将来、仕事を選ぶ際の選択肢の一つにしてください」とあいさつ。J R西日本大阪工務所所長は「見学会は、19年春の開業を目指して工事を進めている。新しい線路をつくる現場をしっ

くり見てください」と語った。J R西日本の担当者が事業の概要や工事のポイントなどを説明し、一行はグループに分かれ、清水建設（村上和夫所長）が担当する「おおさか東線鳴野地区高架橋新設他工事」と、大鉄工業（堀江啓宣所長）が担当する「おおさか東線寝屋川橋りょう外新設他工事」を見学。線路をまたぐ高架

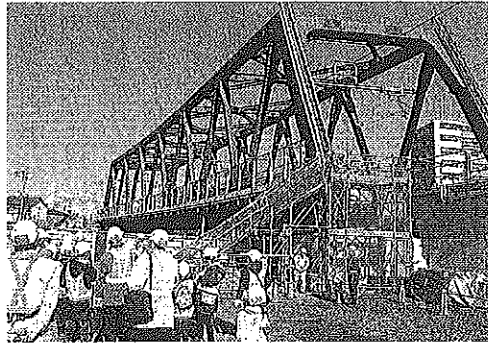


阪口委員長

橋の現場や、新設した駅ホーム、来年4～5月に上流側に横移動させる工事を控えている橋梁現場などを歩いて回った。おおさか東線は、城東貨物線を複線・旅客化するとともに新大阪～淡路駅間約3・2キロに連絡線を設けて東海道本線新大阪駅と大和路線久宝寺駅を結ぶ。延長は約20・3キロ。南側の放出久宝寺駅間約9・2キロは08年3月に開業し、北側の新大阪～放出駅間約11・1キロは19年春の開業を予定している。事業主体は第三セクターの大阪外環状鉄道。

おおさか東線で見学会

大建協



高架橋(上)と橋梁の現場を見学

大阪建設業協会(葛田守弘会長)は11月28日、親子現場見学会を開いた。小学生と保護者の30組60人が参加し、大阪市城東区で建設が進められている「おおさか東線鳴野地区高架橋新設工事」(施工:清水建設)と「おおさか東線寝屋川橋りょう

スケールの大きき体感

外新設他工事」(施工:大鉄工業)の現場を熱心に見学し、大規模工事現場のスケールを体感した。冒頭、協会の広報委員長を務める阪口泰一(鴻池組取締役常務執行役員経営管理本部長)が「見学会は今回で20回目を迎えます。鉄道の建設工事をこのように近くで見ることがめったにな

い機会ですので、見学しながらどのように新しい路線ができていくのかを学んでください。そして、建設業の仕事に少しでも興味を感じていただき、将来の就職の際の選択肢の1つになればと思っています」とあいさつした。

続いて、JR西日本大阪工事事務所おおさか東線南工事所の漆畑智英所長が「おおさか東線は2019年春の完成を目指し工事を進めているところです。



あいさつする阪口広報委員長

設計がその土地の歴史を考慮してデザインされていることなどの説明を受けた。橋台橋梁新設工事の現場では橋長約700mの曲線複線トラス桁橋(下り線)のスケールの大ききに、親子ともに見入っていた。

おおさか東線は、JR新大阪駅からJR久宝寺駅までの約20・3kmの路線で、このうち新大阪から淡路駅(仮称)までの3・2kmが新線、淡路から久宝寺までの17・1kmが既設路線の施設や用地を活用し建設を進めている。建設主体は、JR西日本のほか大阪府や地元自治体が出資して設立した「大阪外環状鉄道」が担当している。1999年に着工し、放出駅〜久宝寺駅間(9・2km)は2008年3月に開業した。

【訂正】1月11日、大阪建設業協会の親子見学会の記事で、同協会の会長名が「葛田守弘」氏とあるのは「奥村太加典」氏の誤りでした。訂正します。

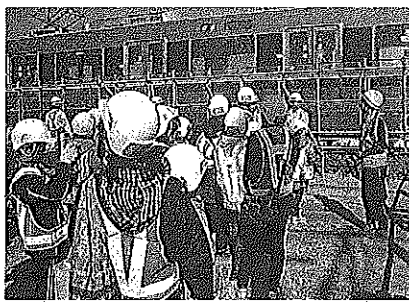
12月2日(水)
建設通信

12月1日(火) 建設通信

親子30組・大建協が現場見学会

鉄道工事現場を間近で体感

大阪建設業協会は11月28日、おおさか東線建設工事で親子現場見学会を開いた。子供と保護者30組60人が参加し、普段は、なかなか見ることのできない鉄道建設工事現場を

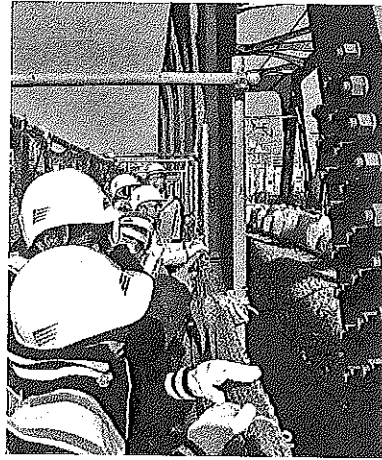


間近で体感した。見学会の冒頭、阪口泰一広報委員長は「親子現場見学会は今回で20回目になる。建設中の工事現場は普段、見ることでしかないのですが、新しい路線ができていくのか学んでほしい。路線が出来上がったあと、電車に乗ったときは建設中に見学したことを思い出してほしい。建設業の仕事に少しでも興味を感じていただいて、将来の仕事の選択のひとつにして

ほしい」とあいさつした。続いてJR西日本の漆畑智英大阪工事事務所とおおさか東線南工事事務所は「3年あたりは、皆さんに快適な電車に乗っていただき、工事中に見学をしたことを思い出してほしい」と述べた。

（施工）大鉄工業）の現場を見学した。ホームの増設に伴う改良工事や橋梁の架け替え工事を見て回った。

おおさか東線は、新大阪駅を起点に大和路線の久宝寺駅までを整備し、大阪東部を南北に走る路線。城東貨物線（片町線支線）の施設や用地を活用しながら複線化・電化を行うとともに、新大阪線から淡路（仮称）までの連絡線を新設する。延長約20・3キロで放出駅から久宝寺駅までの延長約9・2キロは08年3月に開業している。現在は、新大阪駅から放出駅までの約11・1キロで工事を行っており、19年春の開業を目指している。



寝屋川橋りょうで説明を受ける参加者

完成したら一緒に電車に乗りたい

大建協／親子現場見学会

今回で20回目となる大阪建設業協会（奥村太加典会長）主催の親子現場見学会が11月28日に開かれた。一般募集で当選した親子30組60人が参加し、JRおおさか東線の建設現場を見て回った。同協会の阪口泰一広報委員長（鴻池組）は「皆さんは、100組を超える応募の中から選ばれた幸運の持ち主です。日頃目にすることができない現場を大いに見学し、少しでも建設業に魅力を感じてもらえればうれしい」とあいさつした。参加者は3班に分かれ現場を見学。「おおさか東線鳴野地区高架橋新設他工事」「おおさか東線寝屋川橋りょう他新設工事」の2現場を訪れ、昼食後、解散した。

女子児童の母親は、「完成した後、子どもと電車に乗ってここを通ってみたい」とわが子との触れ合いを深めていた。